

平井要造の碑

明治から昭和初期のころ、この六ツ美南部地区の躍進はめざましいものがあった。中島と同様に占部も例外ではなかった。この頃の、占部村（明治22年～39年）の初代村長であった平井要造（1840～1904）の業績は、多くの人々から認められた。そのことを示す「平井要造翁頌徳碑」（1916・大正5年建立）が、占部天神社の境内にある。要造は1840（天保11）年6月20日に生まれ、温厚で、人情に厚く、誠実で、仁義に重い人柄であった。1862（文久2）年5月に百姓代となり、1868（明治初）年には組頭となり、その後、庄屋となった。庄屋・組頭・百姓代は当時の村政をあずかった農民で、村方三役と呼ばれていた。庄屋は村政全般の責任者で、組頭はその補佐役、百姓代は村民の代表という性格をもっていたということである。1874（明治6）年3月、法が改められて中村の戸長（庄屋などの呼称を廃止して明治22年まで戸長）となった。以後、戸長を数回任じ、村会議員も務めた。そして、市町村制の公布により1889（明治22）年11月に占部村長となった。ちなみに当時の占部は、現在の上三ツ木、下三ツ木、中村、国正、正名、定国、坂左右、下和田、野畑が含まれ、役場は中村にあった。要造は全35年間の公職を勤め上げ、1904（明治37）年9月6日に66歳の生涯を終えた。

要造が活躍した時期と占部学校の設立時期が重なっていることから、要造は占部学校の設立と整備に尽力したことが推察される。占部学校は、1890（明治23）年の小学校令の改正により、1村1校設置義務となり、1892（明治25）年5月に占部村学校仮校舎修繕委員会が設置され、同年10月1日、占部村立占部尋常小学校ができた。参考までに当時の六ツ美には、青野、中島、占部、糟海の4つの尋常小学校があった。占部尋常小学校は、翌年、中村に移転され平井久左衛門の居宅を借りたという記録がある。そして、1895（明治28）年、現在の占部天神社の位置に新校舎ができ、開校式が開催された。このように、市町村制とともに小学校令の改正が行われ、占部尋常小学校が創設された。その際には、村長であった要造の行政面での実質的な働きが不可欠であり、教育面での整備がなされたことと考えられる。この後、1906（明治39）年、第五尋常小学校と名を改めた。占部村が六ツ美村と合併し、1908（明治41）年中島の第四尋常小学校と統合され、現在の六ツ美南部小学校になっている。



占部天神社 20150728

平井要造の碑
20150728



- ・平井要造の碑（表面）

平井要造翁頌徳碑
正三位子爵本多忠敬書

- ・平井要造の碑（裏面）

翁姓平井諱要造其祖先遠出於清和源氏其後裔至平井平四郎清隆氏住三州占部郷中村至甚五郎氏家名著聞焉從其十三代傳翁實以天保十一年六月廿日生天性温厚篤實尊皇道重仁義文久二季五月爲百姓代送其巨元治慶應明治初年組頭爲庄屋明治六年三月改爲中村戸長以後爲戸長數回此間尚爲用係爲學務委員爲村會議員明治廿六年十一月因自治村制至拜占部村長三十五年間未曾離公職明治三十七年九月六日六十六歲而殘焉翁怯慕古人遺德賑恤窮民特處王政復古四海擾亂世能愛撫民心誘液后進不愆機宜以來便水利整理土地重衛生盛教育其功績不遑數焉官嘉其勞賜賞不一再矣郷民這慕如考妣相謀欲建碑以傳貞珉乎系朽屬文于余余素浴德感恩深旦切矣敢不顧不文應諸氏請賦頌曰

熱誠當職 曾無倦色 三十五年 克養民力
歲時建碑 闔郷追憶 不消厥功 不磨厥德

大正五年丙辰六月 六ッ美村長 野本芳三郎撰
同村書記 渡邊富右衛門書

- (注) 頌徳（しょうとく）：功德を褒め称えること
天保（てんぼう）：日本の元号の一つ。1830年～1844年までの期間。
文久（ぶんきゅう）：日本の元号の一つ。1861年～1864年までの期間。
元治（げんじ）：日本の元号の一つ。1864年と1865年にまたがる。
慶應（けいおう）：日本の元号の一つ。1865年～1868年までの期間。
明治（めいじ）：日本の元号の一つ。168年～1912年までの期間。
丙辰（ひのえたつ）：大正5年は丙辰。

[本多忠敬（1863～1920）]

本多忠敬（ほんだ ただあつ）は、子爵、貴族院議員。本多忠胤の長男として生まれる。弟は第2代岡崎市長の本多敏樹。1880（明治13）年、第16代岡崎藩最後の藩主である本多忠直が35歳の若さで死去。忠敬が本多家の家督を相続する。1884（明治17）年、子爵を授けられる。宮内省式部官に就任。1869（明治2）年に設立されたが、廃藩置県に伴い2年で廃止された岡崎藩の藩校の允文館（いんぶんかん）と允武館（いんぶかん）の遺志を継ぐべく、教育事業に力を注いだ。本多賞を創設し小中学生の勉学を奨励。1901（明治34）年東京遊学の子弟のために、本郷森川町の旧藩邸に宿舎「龍城館」と三河郷友会の学生寮舎（三河郷友会学生会館）を提供した。同郷子弟に対し物心両面から援助の功を尽くした。

本項は以下の資料を引用している。

[六ッ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 高須 亮平

発行日 2012（平成 24）年 3 月 31 日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

[わたしたちのふるさと 六ッ南 114 選]

監修者 総代会長 平井 良美

社教委員長 近藤 武美

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年児童 114 名

（平成 25 年 3 月 19 日卒業）

編者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年担任

権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛

発行日 2013（平成 25）年 3 月 1 日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

製本 ブラザー印刷株式会社

発行 岡崎市立六ッ美南部小学校

[六ッ美村誌]

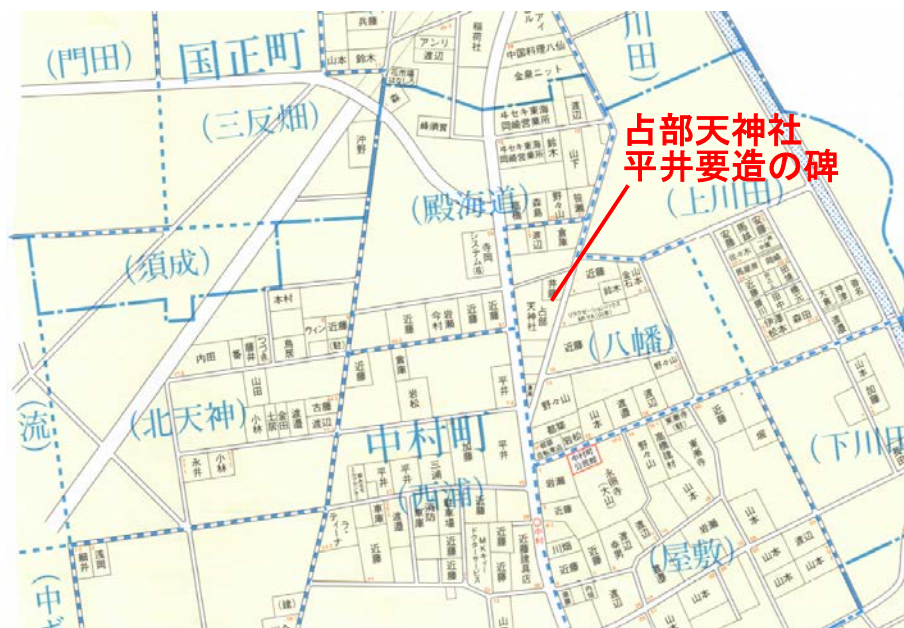
編者 六ッ美村是調査会

発行 六ッ美村是調査会

発行日 1926（大正 15）年 12 月 1 日

発行所 日新堂書店

印刷所 活版印刷所



六ッ美村誌には次のように記載されている

翁姓平井諱要造其祖先遠出於清和源氏其後裔至平井平四郎清隆氏住三州占部郷中村至甚五郎氏家名著聞焉從其十三氏傳翁實以天保十一年六月十日生天性温厚篤實尊皇道重仁義文久二年五月爲百姓代從其恒元治慶應明治初年爲組頭爲庄屋明治六年改爲中村戸長以後爲戸長數回此間尙爲用係爲學務委員爲村會議員明治二十六年十一月因自治村制至拜占部村長三十五年間未曾離公職明治三十七年九月六日六十六歲而歿焉翁恒慕古人遺德賑恤窮民特處王政復古四海擾亂世能愛撫民心誘掖後進不愆機宜以來便水利整理土地重衛生盛教育其功績不遑數焉官嘉其勞賜賞不一再矣郷民追慕如考妣相謀欲建碑以傳貞珉乎不朽屬文于余素浴德感恩深且切矣敢不顧不文應諸氏請賦頌德曰

熱誠當職 曾無倦色 三十五年 克養民力

歲時建碑 闔郷追憶 不消厥功 不磨厥德

大正五年丙辰六月

六ッ美村大字中

六ッ美村長 野本芳三郎 撰

同書記 渡邊富右衛門 書